

## 1年間の振り返りと新たな出発によせて

准教授 大関 智子

特に厳しかった今年の冬も、雪解けとともに終わりを告げ、車窓から見える海の色、お店を彩る桜色に徐々に春の気配を感じ始めました。「教職課程通信 第1号」の原稿を書いたのが先日のことのように感じられるものの、卒業号を意識した紙面に年度の終わりをひしひしと実感しています。

先日、「秋田公立美術大学卒業・修了展2026」が5日間に渡り諸会場で開催されました。学びの集大成となる力作が並び、多くの来場者を魅了するとともに、期間中メディアでも頻繁に取り上げられているのを目にした人も多いのではないのでしょうか。

私は初日に足を運びましたが、展示会場へ向かう道の途中、期待と緊張で胸が高鳴る自分にふと気づきました。思い返してみると、毎年同じような心境で会場へ向かっている気がします。「作品を鑑賞しに行く」というよりも、「4年生に再会する」という感覚に近いからなのかもしれません。

本学の教職課程では、カリキュラム上、学年が上がるごとに履修科目が少なくなり、教職課程の教員が学生と関わる時間が徐々に減っていきます。毎週、何度も授業で会っていたものが週に1度となり、卒業までの半年はほとんど顔を合わせることはありません。それゆえ、卒業制作作品に出会うということは、久々の個々との再会であり、4年間で何を考え、どのような成長を遂げたのかを目撃する機会ともなります。授業でそれぞれが考え悩みながら制作する姿や、交わしたたわいのない会話を作品に重ね合わせながら、1点1点の作品をじっくりと鑑賞しました。数え切れないほどの経験の蓄積から生じた多様な表現は、まさに長い時を経て生み出された結晶のようで、4年間という月日を駆け抜けた卒業生を物語るように、それぞれが異なる美しさを放っていました。

さて、令和7年度も終盤に差し掛かり、徐々に今年度を振り返るとともに、次年度を意識する時分となりました。今年度、1年生は、「教わる側」から「教える側」へ視点の転換を意識することからスタートしました。「教職入門」と「学校体験実習1」の授業では、初めて学校現場での実習に参加し、見学や指導補助を経験しました。実習の中で子どもたちから「先生」と初めて呼ばれたことに感銘を受け、教師という職業の責任の重さについて考えたという声がとても印象的でした。2年生は、「学校体験実習2」の授業において、秋田市内の中・高等学校の協力のもと、グループによる実習授業を行いました。実際に授業者として教壇に立ち、教材研究や授業準備の大変さ、限られた時間の中で学習の目標を達成する難しさを実感した人も多いのではないのでしょうか。3年生は、教職課程のハイライトである教育実習を無事に終えることができました。今年度開催された実習報告会では、発表者と聞き手である学生との間で活発な意見交換がなされ、実習から得た成果と課題に真摯に向き合う姿勢から、教師としての視点が醸成されている様子に頼もしさを感じました。そして4年生は、教職課程最後の授業である「教職実践演習」を終え、この春ついに教員免許状を手にしめます。卒業後、教員になる人や企業に就職する人、進学する人など…それぞれが自身で決めた道を再び歩み始めますが、教職課程での学びが生きるのは教職だけではありません。ここで得た新たな引き出しを強みに、時に引き出しを開けては皆さんのこれからの中で生きることがあったのなら、これ以上嬉しいことはありません。

さあ、新たなスタートはすぐそこです。まずは皆さんの1年間の取り組みをたたえ、これからの益々の成長に期待したいと思います。

# 教職実践演習を終えて

「教職実践演習」は、教職課程はもちろん、教職課程以外の学びから得たものも含めて、それまで身につけた様々な資質能力を、教員として必要な資質能力へと有機的に統合させ、教職生活が円滑にスタートできるようにすることがねらいとなっています。この科目が4年生の後期に設定され、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」と称されるはそのためです。

今年度も次のように計8回（16コマ）の授業が実施されました。以下、いくつか特徴的な授業を紹介します。

回	日時	限	テーマ
1	10月 2日(木)	4限	学級崩壊やいじめ・不登校を未然に防ぐ手立て①
2		5限	学級崩壊やいじめ・不登校を未然に防ぐ手立て②
3	10月 9日(木)	4限	学校と関係機関との連携
4		5限	保護者対応
5	10月16日(木)	4限	I C Tを活用した美術科授業①
6		5限	I C Tを活用した美術科授業②
7	10月23日(木)	4限	学校教育におけるI C Tの活用 (遠隔授業)
8		5限	学級経営と学級開き (遠隔授業)
9	10月30日(木)	4限	学校運営組織における養護教諭との連携
11		5限	学校における一次救命措置の実際
11	11月 6日(木)	4限	教職員不祥事の未然防止
12		5限	児童生徒への性暴力の防止
13	11月 8日(土)	13:00~	教職の意義と教員の責務①
14		16:10	教職の意義と教員の責務②
15	11月13日(木)	4限	安心安全な学校を目指して
16		5限	理想の教師像と自分

## ○学校における一次救命措置の実際（10/30）



学校等で救命措置が必要な場面に遭遇することを想定して、秋田市消防署新屋分署から救急救命士をお迎えして、A E Dの使い方の講習を行いました。とても寒い体育館の中での講習でしたが、全員が人形を使ってA E D操作を体験することができたことは、とても大きな収穫でした。救急救命が必要な場面に遭遇したら、この日の授業を思い起こして、勇気を持って行動してほしいと願っています。

学校等で救命措置が必要な場面に遭遇することを想定して、秋田市消防署新屋分署から救急救命士をお迎えして、A E Dの使い方の講習を行いました。

## ○児童生徒への性暴力の防止（11/6）

昨今、教員による児童・生徒への性暴力事件が相次ぎ、大きな社会問題となっています。このような社会



情勢を受けて、今年度から取り入れることにしたテーマです。

子どもに対する性犯罪・性暴力の現状や、日本版D B Sの制度化（子どもに接する仕事につく人の性犯罪歴を事業所が法務省に照会できるようにする制度）、さらには、教員が不祥事を起こした場合の処分の種類等、重いテーマにも真剣に向き合っている学生たちの姿が印象的でした。

子どもに対する性犯罪・性暴力の現状や、日本版D B Sの

## ○教職の意義と教員の責務①②（11/8）

この授業は、本学を卒業後に教員となって活躍している新米先生をお迎えする恒例の授業です。今年は、本学を昨年3月に卒業して秋田県内の中学校に勤務している先輩（2名）と、本学を卒業後2年間の大学院生活を経て、今年度から他県で中学校教諭として活躍している先輩（2名）



の4名においでいただきました。先輩方からは、リアルな毎日の教員生活の様子のほか、教員のやりがいや悩み、就職に当たって持つべき心構え、さらには残りの大学生活の過ごし方なども具体的に伺うことができて、学生たちにとってはどれも興味深いお話だったようです。



## ○理想の教師像と自分（11/13）



最終授業では毛内嘉威教授のほか、今回初めて大関智子准教授にもご講話をいただきました。大関准教授からはご自身が大学教員になるまでの道のりや、現在の教育に対する考え方など、興味深いお話を伺いました。

最終授業では毛内嘉威教授のほか、今回初めて大関智子准教授にもご講話をいただきました。大関准教授からはご自身が大学教員になるまでの道のりや、現在の教育に対する考え方など、興味深いお話を伺いました。

# 祝卒業

写真 (20251113撮影)



写真 (20251121撮影)



## 卒業生の感想

○教職課程 4年間で振り返って、一番自身に変化成長したなと思うポイントがあります。それは教職に就こうと思ったことです。たくさんの方の事を学び、生徒の夢や成長を沢山サポートできるようになりたいとの心構えができた。

○1年生の頃、教職課程にいたことで、人間関係が保証されていました。教職の中はもちろん、教職以外の時間でも仲間に助けられたことがたくさんあります。本当に4年間教職課程を頑張ってきてよかった。

○自分で考えた授業で生徒が楽しそうに制作している姿やフィードバックで生徒が以前より成長したことがわかると、私もうれしくなった。「大変なことの方が多いけれど、生徒の成長する姿を見れば帳消しになる」という言葉はおそらく本当なのだろう。

○学校は子どもを育てる場であるが、社会の縮図とも言えるほど人間関係の形成や子どもがやりたいことを追求できる等、社会で生きる力を養う場である。教育現場に参加するための資格として、教員免許の持つ意味の重さを忘れないでいたい。

## 贈る言葉

祝卒業。美術教師として歩む人も、異なる道へ進む人も、本学で培った「領域横断」の視点を忘れないでください。教育も社会も、既存の枠組みにとらわれない柔軟な発想を求めています。どんな場所でも、本学の理念である「新しい芸術領域の創造への挑戦」を胸に、表現を追求し続けてください。変化を恐れず、多様な価値を繋ぐ存在として活躍することを期待しています。

(毛内 嘉威 副学長 教授)

ご卒業おめでとうございます。桜の咲く頃の出会ってから早4年。それぞれが大人の顔立ちになってきました。教職課程は「人づくり専攻」と勝手に位置づけ、授業でもいろいろなことを話してきましたが、少しでも参考になっていれば嬉しいです。大学を卒業して社会人となって、本当の自分の生き方が始まります。その土台がここ秋田で培われたことでしょう。ここで紡がれた絆と思い出を胸に、さらに飛躍することをお祈り申し上げます。

(野々口 浩幸 教授)

ご卒業おめでとうございます。入学当初の皆さんの表情を思い浮かべ、卒業時の大きな成長に驚いています。卒業制作展での成果を拝見し、ここでの学びが制作にも活かされ、確かな力として結実していることを実感しました。美術という専門性を背景に、対話し、考え、実行し、振り返りながら積み重ねてきた歩みは、仲間や先生方、実習先の方々との関わりの中で育まれてきたものです。その歩みを携え、自信をもって踏み出してください。

(尾澤 勇 教授)

ご卒業おめでとうございます。フレンドリーで発想が豊か、さらには素材の探究に貪欲な学年で、皆さんとご一緒した授業は、制作の様子を側で見ては毎回ワクワクしてしまうとても楽しい時間でした。この先どんな出来事が待ち受けていようとも、「自分自身の座標」(覚えていますか?)を見失わなければ大丈夫です。若くたくさんの可能性を秘めた皆さん、大きく社会へ羽ばたく姿を見送るとともに、ご活躍を心よりお祈りしております。

(大関 智子 准教授)

「めっちゃ〇〇している」この「めっちゃ」という副詞。いまや話し言葉として広く浸透しており、テレビドラマやCMはもとより、大学界限でもよく聞く。でも私は口にできない。意味はわかる。聞いていて何の違和感もない。でも自分は使えない。どこかに恥ずかしいような感覚があるのかもしれない、あ～あ、これが年をとってしまったということなのだ実感する。

それはさておき、時代を切り拓く君たちには「めっちゃ」頑張ってもらいたいと願っています。

(嶋崎 公人 特任教授)

教師1年目の年、勤務する学校の校長から「話を目で聞こうとする姿勢がある者は信頼に足る」という話を聞いたことがあります。当時はその意味を深く考えもしませんでした。年齢を重ねるにつれ、理解が深まってきたように思っています。

話の内容はもちろん、話し手の気持ちまでもしっかり受け止めようとする心は、人の目に現れるものです。皆さんの卒業ににあたってこの言葉を贈ります。

ご卒業おめでとうございます。

(齋藤 透 特任教授)

教科書には決してのっぴいず  
蛍の光で照らしても  
窓の雪ですかしてみても  
正体をあらわさない  
そのくせきみをどこまでもいざなうもの  
卒業証書の望遠鏡でのぞく  
きみの〇〇

【卒業式 谷川俊太郎】

問題「〇〇に入る言葉は？」

正解は…、“未来”

ご卒業、おめでとうございます

(加賀谷 亨 特任教授)

約6万～10万年前にアフリカで誕生したホモ・サピエンスは、ユーラシア大陸を経て南北アメリカ大陸の最南端に至るまで、地球全土に拡散・移動しました。グレートジャーニーです。人間はその先に何かがあるのか好奇心の塊のような生き物です。みなさんの人生の旅はこれからが本番です。よき旅を続けてください。

(谷村 格 特任教授)

美術への強い興味と探究心を原動力に過ごした学生生活に一区切りをつけることとなりました。4月から社会で働く人、研究を継続する人、ちょっと一休みをして鋭気を養う人、それぞれが違った環境で暮らすこととなります。失敗や苦労もあるでしょうが、人生は一度きり。いろいろな岐路で悩み、考え、自分の道を悔いなく進んで行ってください。皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(佐藤 進 特任教授)

4年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。実習を経て教育の在り方を模索したこの一年、皆さんの姿には教員としての自覚を感じました。自身の専門の研究と教職の両立は大変だったと思いますが、その経験は必ず糧となります。教員という仕事は、人生経験を重ねることで仕事の面白さや生活の充実につながると思っています。将来の「セカンドキャリア」としての教職もおすすめします。卒業後も、気軽に大学へ相談にいらしてください。

(有馬 寛子 助手)

4年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

大学生活という、人生最後の夏休みのような(わたしはそう思っています)、そんな時間の中で教職に向き合った時間は、教員になる/ならないに関わらず、これからの人生において確かな地盤となるはずですよ。これから起きる大抵のことも、みなさんなら潜り抜けてしまえると思っています。大吉です。晴れの門出を心よりお祝い申し上げます。

(前川原 綾香 助手)

ご卒業おめでとうございます。大学生活は満喫できたでしょうか。今後、困難な課題に直面したとき「大学時代の方がよほど大変だった」と笑って振り返られるほど、充実した時間を過ごせていたなら幸いです。ひたむきに取り組んだ経験や、何かをやり遂げた記憶は、将来にわたって必ず皆さんの心の支えとなります。熱意を忘れず、心にささやかな目標とゆとりを持って、幸多き人生を歩んでください。皆様の活躍を心よりお祈りしております。

(佐々木 柚乃葉 助手)